

| | | | | |
|--------------------------|---|---|---|---|
| <p>年間目標</p> | <p>○保健的で安全な環境のもと、一人ひとりの子どもの欲求を十分に受け止め、生命の保持と情緒の安定を図る。 ○食事・排泄・着脱などの経験を通して、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○安全な環境の中で、全身を使った遊びや探索活動を十分に行い、歩行の完成を図る。 ○保育教諭の話しかけにより、言葉の理解や発語への意欲を育てながら友達との関わりを楽しむ。 ○身近な音楽に親しんだり、のびのびと描いたりすることを楽しむ。</p> | | | |
| <p>月 齢</p> | <p>1歳～1歳6か月未満</p> | <p>1歳6か月～2歳未満</p> | <p>2歳～2歳6か月未満</p> | <p>2歳6か月～2歳11か月</p> |
| <p>子どもの姿 (発達の状況)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 離乳完了食になり、手づかみやスプーンで食べようとする。 排尿の間隔が長くなり、量が多くなる。 睡眠がだいたい一日一回になる。 ひとり立ちができ、歩けるようになる。 気に入らないと泣き、自分の意志や欲求を強く出し、後追いやしがみつきもみられる。 ワンワン、プープーなどのいくつかの単語を話す。 | <ul style="list-style-type: none"> スプーンやフォークなどを使って一人で食べようとする。 排尿したことを動作や言葉で知らせたりトイレに誘うと排泄したりする。 身の回りのことを自分でしたり、「イヤ」「ジブンデ」などと言い、簡単な衣服の脱ぎ着を教師の介助でできるようになる。 睡眠時間が安定して一定時間眠れる。 歩行が安定し押ししたり、投げたりする。 保育教諭の手を取り、して欲しいことを態度や表情で表す。 自分の要求を指差しや動作、言葉などで表す。 | <ul style="list-style-type: none"> 食べたいという気持ちが高まり、促されると苦手な物でも食べる。 タイミングが合い、トイレで排尿することが増える。 歩く、走る、跳ぶなどの運動ができるようになる。 友だちと一緒に遊ぶことを喜ぶ。 玩具などを実物に見立てて遊ぶことが増える。 二語文が話せるようになり、やりとりを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> スプーンやフォークを親指と人指し指で下から持って食べる。 排泄の間隔が定まりトイレで排泄する。 よじ登る、くぐるなど全身を動かす。 友だちとのかかわりが増え、模倣遊びやごっこ遊びをする。 遊びに必要な言葉を使い、友達とのやり取りを楽しむ。 |
| <p>ねらい</p> | <ul style="list-style-type: none"> 保健的で安全な環境を作り、安定したかかわりのなかで安心して過ごせるようにし、一人ひとりの状態に応じた快適な生活ができるようにする。 室内外で様々な物に触れながら探索活動を十分に行いのびのびと過ごす。 | <ul style="list-style-type: none"> 生理的欲求を満ちし、様々な身体活動を十分に行えるように、安全で活動しやすい環境を整える。 様々な生活、遊びを通して自由な活動を十分に行い、身体を動かすことを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> 安心できる保育教諭との関係のなかで、のびのびと自己を発揮し、自分でやりたい意欲が高まる。 保育教諭を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりをし、全身や手や指を使う遊びを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> 大きくなった喜びを感じながら、身の回りのことを自分でしようとする意欲を大切にし、満足感を味わえるようにする。 いろいろな遊びを通して、保育教諭の仲立ちのもと友だちや異年齢児と一緒に遊ぶことを楽しむ。 |
| <p>育みたいこと・経験してほしいこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもの気持ちや欲求を十分に満ちし、温かく受容しながら新しい環境に慣れるようにする。 保育教諭への甘えや依存の欲求に答えながら信頼関係を築き安定して過ごせるようにする。 おむつ交換を嫌がらずにしてもらい、清拭後の心地よさを知る。 楽しい雰囲気の中で様々な食べ物に親しみ、食べようとする。 保育教諭と一緒に口拭きや手拭き、手洗いをしようとする。 保育教諭に見守られて安心して眠る。 生活や遊びの中でさまざまなものにふれ、五感で感じる。 保育教諭と一緒に遊びながら、友だちへの関心を高める。 喃語や片言を優しく受け止めてもらい、やり取りを楽しむ。 歌や手遊びを喜んで見たり聞いたり、リズムに乗って体を動かしたりすることを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> 保育教諭との信頼関係のなかで、自分の気持ちを安心して表せるようにする。 いろいろな食べ物に関心をもち、手づかみ、またはスプーンやフォークなどを使って意欲的に食べようとする。 オムツが汚れていない時に、保育教諭に促されてトイレに行こうとする。 衣服の着脱に興味を持ち一人でパンツやズボンを脱ごうとする。 保育教諭に見守られながら一定時間眠る。 取り合い、けんかなどは経験させつつ仲立ちをし、双方の気持ちの代弁者となりかかわり方を知らせていく。 安全な環境のもとで、聞く、見る、触れるなどの感覚の働きを豊かにする。 簡単な言葉を理解し、指さしや一語文に様々な思いを込めて表現する。 クレパスやマーカーなどを使い、なぐり描きを楽しむ。 保育教諭と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、身体を動かしたりして遊ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 自我の育ちを見守り、子どもの気持ちを受け止め、さりげなく援助をしていく。 いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わうなどの経験を通して、自分から進んで食べようとする。 トイレに誘い、タイミングが合えばトイレで排尿できるようにする。 手伝ってもらいながら、衣服の着脱を自分でしてみようとする。 自分の布団がわかり、保育教諭に見守られて一定時間安心して眠る。 押す、引っ張る、登る、くぐる、降りるなど全身を使う遊びを楽しむ、身体の発達を促すようにする。 探索活動が十分に行えるように、環境を整え、適切に働きかける。 興味のある絵本を保育教諭と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しや模倣を楽しむ。 自分の思いや要求を簡単な言葉で伝えようとする。 保育教諭と一緒に歌や手遊び、リズム遊びを楽しむ。 生活や遊びの中で、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> 気候や体調に留意しながら戸外遊びを楽しむため、日常的に健康状態の把握に努め、保健的、安全配慮に留意する。 自分から進んで食べようとする意欲を持ち、全部食べられたことを喜ぶ。 パンツを一人で脱ぎ着したり、衣服を自分で着ようとしたりする。 自分で出来た時は認め、一人でできることで自信や満足感をもたせ、できることを広げていく。 つまむ、めくる、にぎるなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。 一人遊びやつもり遊びを充実させながらも、徐々に友だちと一緒に遊ぶ楽しみを経験させる。 五感を使って様々な物に触れ、感じたりイメージしたり、自由に描いたり作ったりする。 友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして楽しむ。 |
| <p>期</p> | <p>I期(4～5月)</p> | <p>II期(6～8月)</p> | <p>III期(9～12月)</p> | <p>IV期(1～3月)</p> |
| <p>ねらい</p> | <ul style="list-style-type: none"> 新しい環境や生活に慣れ、安心して過ごせるようにする。 保育教諭に見守られ、かかわるなかで、好きな遊びを楽しむ。 戸外で自然にふれたり遊んだりして、開放感を味わう。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの健康状態を把握し、水分補給や適切な休息をとり、体調に留意していく。 身のまわりのことに興味を持ち、自分でやってみようとする。 好きな遊びや水、砂の感触を楽しみ満足感を味わう。 | <ul style="list-style-type: none"> 気温差や体調に留意し衣服の調節をこまめに行い元気に過ごせるようにする。 いろいろな遊びを通して、十分に身体を動かすことを楽しむ中で、友達とのかかわりを楽しむ。 戸外遊びや散歩を楽しみ、身近な自然に親しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの健康状態や活動状況に応じて、室温、衣服の調節に配慮し、健康に過ごせるようにする。 保育教諭や友だちとのかかわりのなかで、言葉のやりとりを楽しむ。 進級することを喜び、期待感をもつ。 |
| <p>家庭と連携</p> | <ul style="list-style-type: none"> 家庭での子どもの様子や園での様子を伝え合い、信頼関係を築いていく。 気温の変化、季節の変わり目で、体調を崩しやすいので、注意してもらうように伝える。 自我の芽生えを受容したり、同時に自分の思い通りにならないことをさりげなく見守り知らせていく大切な時期であることを伝える。 病気の予防、衣服の調節などについて知らせる。 身の回りのことが家庭でも少しずつできるように働きかける。 日々の保育や行事を通して、ともに子どもの成長を喜び合う。 健康面、アレルギー、家庭での過ごし方や園生活の様子について共通理解をする。 | | | |

